

令和3年度

# 港湾空港技術講演会

日時

令和4年1月31日（月）  
13:00～16:40

開催  
方法

Microsoft Teams  
によるリモート開催  
（参加無料）

## ■ 講演会概要 ■

本講演会は、国土交通省国土技術政策総合研究所及び国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所港湾空港技術研究所で実施している調査、研究、技術開発の成果を公表し、その普及に努めることを目的に開催しております。

当日は『2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現』をテーマに、みずほリサーチ&テクノロジー(株)羽島智之氏、遠藤啓史氏の特別講演と、両研究所から最近の研究成果を発表します。

申込  
方法

参加を希望される方は必要事項を記載のうえ下記メールアドレスにご連絡をお願いします。

■ 申込先 ■ kouhou.pari@p.mpat.go.jp

## ■ 必要事項 ■

- ①氏名、②所属、
- ③CPD受講証明(※)が必要な場合はその旨の記載

■ 申込締切 ■ 1月26日（水）



 土木学会CPDプログラム 認定番号 JSCE21-1542  
単位数 3.2単位

## ※CPD受講証明方法

本発表会は土木学会認定 CPD プログラムです。本発表会はリモート開催のため、受講後に100字以上の学びや気付き（所見）を所定のフォームに記入いただき、ご提出ください。事務局で内容を確認した後に、受講証明書をお送りいたします。

詳細は港湾空港技術研究所ホームページにてご案内いたします

## ■ お問合せ先 ■

国立研究開発法人  
海上・港湾・航空技術研究所  
港湾空港技術研究所  
企画調整・防災課 山本  
Tel : 046-844-5040

# プログラム

13:00	開会挨拶 ◎高野 誠紀 港湾空港技術研究所 所長
13:10	特別講演 カーボンニュートラルを巡る最新動向について ◎羽島智之 みずほリサーチ&テクノロジーズ(株) 環境エネルギー第2部 環境エネルギー政策チーム 課長 ◎遠藤啓史 みずほリサーチ&テクノロジーズ(株) グローバルイノベーション&エネルギー部 エネルギービジネスチーム コンサルタント
14:10	脱炭素化に向けたブルーカーボンの活用 ◎渡辺 謙太 港湾空港技術研究所 沿岸環境研究領域 沿岸環境研究グループ 主任研究官
14:45	休憩(15分)
15:00	港空研における洋上風力発電に関する研究 ◎米山 治男 港湾空港技術研究所 海洋利用研究領域長
15:35	令和2年度土木学会賞(国際活動奨励賞)受賞報告 ◎森川 嘉之 港湾空港技術研究所 地盤研究領域長
15:55	近年の海事動向のデータ分析 ―新型コロナの影響及び脱炭素船の動向を中心に― ◎上田 剛士 国土技術政策総合研究所 港湾研究部 港湾計画研究室 主任研究官
16:30	閉会挨拶 ◎坂 克人 国土技術政策総合研究所 副所長

## 講演者紹介/講演内容の概要

### 特別講演 『カーボンニュートラルを巡る最新動向について』

2016年の「パリ協定」の発効、昨年10月の日本政府による「2050年カーボンニュートラル(CN)宣言」など、国内外で脱炭素の動きが急加速している。本講演では、CNを巡る各国政府・企業の動向とともに、CN達成に向けた脱炭素化技術の中でも、特に燃焼時にCO<sub>2</sub>を排出しない水素・アンモニアの燃料利用に関わる最新動向を概説する。



はじめ ともゆき  
羽島 智之

2006年 ポストン大学大学院環境学専攻修了  
2012年 みずほ情報総研(株)(現・みずほリサーチ&テクノロジーズ(株))入社



えんどう ひろふみ  
遠藤 啓史

2019年 京都大学大学院エネルギー科学研究科修了  
2019年 みずほ情報総研(株)(現・みずほリサーチ&テクノロジーズ(株))入社

### 渡辺謙太『脱炭素化に向けたブルーカーボンの活用』

カーボンニュートラルの達成には排出削減技術だけではなく、吸収源の拡大を含めたCO<sub>2</sub>吸収技術の開発・適用が不可欠である。本講演では、沿岸生態系のCO<sub>2</sub>吸収機能(ブルーカーボン)の活用に関する最新の研究と社会実装に向けた取り組みについて紹介する。

### 米山治男『港空研における洋上風力発電に関する研究』

着床式洋上風力発電施設を対象とした波浪・地震・基礎・構造などの研究を中心に、洋上風力発電施設的设计・施工などにおける技術的課題に対して、港空研で取り組んでいる最近の研究の概要について紹介する。

### 森川嘉之『令和2年度土木学会賞(国際活動奨励賞)受賞報告』

国際活動奨励賞は、個別の研究や論文ではなく、海外における社会資本の整備において現地での土木技術の進歩発展に寄与した活動が対象となります。今回は応募にあたって実績として示した主な活動をご紹介します。

### 上田剛士『近年の海事動向のデータ分析 ―新型コロナの影響及び脱炭素船の動向を中心に―』

新型コロナウイルス感染症の影響を受けた近年の世界の船舶動向や東アジア―北米間の貨物流動、及び脱炭素化に対応した船舶建造動向等について、PIERS、Lloyd's、Clarkson等の海事ビッグデータを用いて定量的な分析を行った結果を紹介する。